

第 290 回 昭和の森自然観察会

春の準備 ～植物のもう一つの顔：冬芽の観察～

井上智史（千葉市）

日 時：2016 年 2 月 21 日（日） 13 時～15 時 天候：晴れのち曇り

参加者：7 名（大人 6 名・小人 1 名） 指導員：9 名

担当指導員：木嶋恵子・井上智史

「芽鱗痕というのはどれ？」と想定外の質問で始まった観察会、生憎これは裸芽のニガキ。それなら順番逆の方が良かったかなと思いつつ、鱗芽タイプとして紹介したのはマユミ。隠芽タイプは、枝を切られてしまったので他所から調達して見てもらったハリエンジュ。芽もついているけれど、ドングリのあかちゃんもあるので見つけてみましょうとクヌギ。ふくらんでいる芽とそうでない芽と見比べて、花芽と葉芽とがあることを示すイヌシデ。今度は花芽と葉芽とで形が随分違いますよ、タマネギ型が花、ネギ型が葉、とハナミズキ。足下には黒いかたまり、ふと仰ぎ見れば高いところに咲きかけの白い花が一つ、コブシ。枝を挟んだ一対の赤い小さな芽が、向きを変えつつ並んでいる十字対生のノムラカエデ。なかなか落ちない茶色くなった葉っぱ、足下にはどんぐり、ごつごつした感じのカシワ。重そうなしっかりした芽が並んでいて、先端の裸芽は緑色で葉脈も見えているアジサイ。改めて枝の伸び方を芽鱗痕で確認してみると、思いの外ゆっくりしているソメイヨシノ。いかにも暖かそうなコートを、それも重ね着をして、冬芽の王者の貫禄を持つモクレン。まあとにかく触ってみてください、わあべトベトする、と大きいだけではないトチノキ。えもいわれぬ緋色の芽、それだけでなく、そもそも新しい枝全体が美しい緋色のミズキ。芽の周りにぐるりと葉痕、その理由は、葉柄内芽で葉っぱに守られていたハクウンボク。もうすぐ咲くよという状態は、冬芽花芽とは呼ばず、ツボミと呼んでますよね、とウメ。楊枝の材料として有名だけれども、丸い花芽と細い葉芽の区別も分かりやすいクロモジ。短枝の先にポツリとつく半球状の芽、そのすぐそばにぐるりと葉痕が並ぶのはイチョウ。まとめに、咲き始めて花が出たり葉が出たり、ああこうなるのかと（種類不明の）サクラ。地味だけど、あるいは地味故に普段は気にも留めない、春近くの冬の様子の観察会でした。

